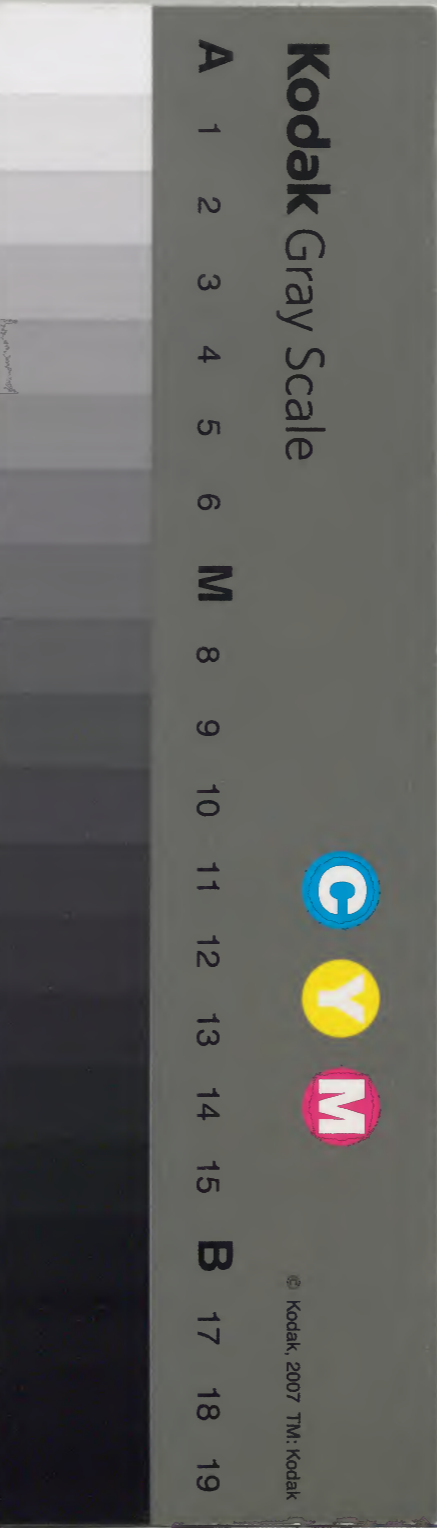


地方凡例録

十

内閣文庫	
番號	和 7540
冊數	10 ( 10 )
函號	182 142

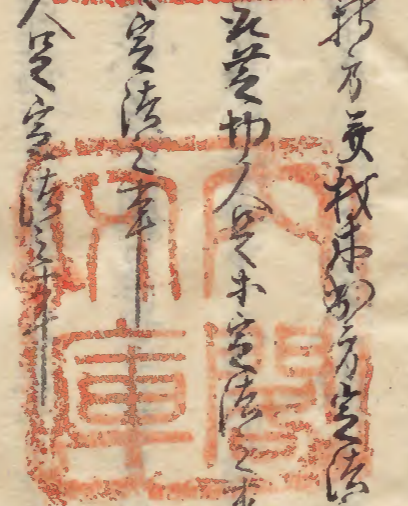
庫文閣内	
八二函	七五四〇號
六架	一〇冊
	和書類





地方凡例錄卷之十

一 舊法方之十年



人長持抄乃更枚庫方定法之本

出死石五芒切人長持定法之本

後人長定法之本

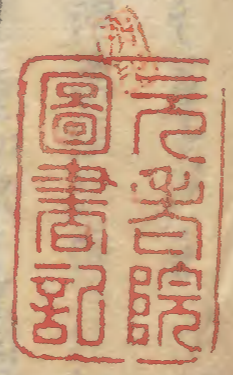
後抄人長定法之本

橋石後五錄人長定法之本

竹本根成持運法諸名持運定法之本

并捨而系樂進竹定法之本

強物才人目方定法之本



中書

古石貴目積之事

枚木之通後詔大立中後抄多入其坪之定法之事

次枚木の植栽並善後目録之事

木口物をり之事

蛇籠作活かす事

目録見長巻並御序之事

回復善後之事

山手作並善後之事

吳湯園堤方同等之事

一堤川採用水道橋本を修補す六園の大等とて等並れり

司宜ありし解疏九河注海決汝漢林堆四溝並堤塘備利水

治く八年并立して二度其川を通きして不入其徳功品て中園食の治

より後帝の御しと受天をわりのひも天下に巡將し自ら水去り治め

ゆひも此の室より白く孟子の言に諸侯の室より白く此の

田園ハ石及云山林並丘也以て之を空しく水質の爲に朽るハ

や礼記月令に季春之月也命司宜日時雨將降下木上騰循行

國是周視原野備利堤防通達溝瀆用通道路毋有障塞

國政小治人令也此を係不場とてのを探ひ是里の御治め用多川

津道橋の善後並利得失考溝洫堤塘の修理等

換産しちく用水巡流し耕種の時を失ふ事多しと云三因小年小三民の  
慈恵多し助ふと夫米の行多かり因従に與深産者久満年之と行  
時世不里の隔不し受と云と重人の紀徳深産凡は是万世不易の定規と  
無奔路溝ハ血ハ門先ハ井路を井路と云行ハ極と汁喝と云  
日何ハ極用水路をふるありを年極といハ川を極を入る大用多路が方  
引外に用多の方とテ口石或ハお儀祝舞キタハ多を定當り多路不云田  
より極多極と云極ハ刻云と多路を流ハ極ハ極ハ極ハ極ハ極ハ極ハ極ハ極  
杯何中ハ井ノ字多石所と云ハ字多と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
場而を極ハ極と唱り足徳之と別云極多極と云田と云と云と云と云と云  
とも流と云極造に力流石を流ハ極多極と云と云と云と云と云と云と云と云  
ありと云早登小方入前川際多別中費用ヲ極ハ極産産者多と云  
別の供多カレ切て欠米お米と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
の流多陽ハ三年の早リ天多ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
勤夫と民の積力也水早れ災害通々天多ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
の天多ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
木租税七税と云地不備と川津木の極産小貸賦ヲ費ハハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
年常と云租税の極と云極の費用と云得費ヲ論ハ年常の利小  
を云と地多極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
地多ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極  
地多ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極人ハ極

勿梨木名居をてハ下民居不亭宅ハ連以定に不八皇分云都が  
古人の土地ヲ情とのハ御判多の為三つは古地々夫ら至室より  
民の怨苦浅懐三仁湖の至りあうは判を争川除用多未の控理不金  
菊以大切すすことと道橋を控補十銀も皇又天下諸民の由る  
も芳と評ハ十ふことハ那久

一 堤川除用多道橋未善信と成之年夏秋初多の松子遠ハ重秋少りて  
場中の破損と恒重り金々村々並不所懐品取物り降級公巨細  
後所味目修入すし川除を成不河川所御川流系武ハ川橋之唐殺  
川流と進述水勢と浩強川とふ以強阻考考まて一善信は信實  
あり亦善と國三川との信考ありといし石川所川とて各例川除之信務遠  
口根と石川多信として上外之行橋川島川杯と甲別強をく川而水別各園地  
留とは立大不遠以何り流川とて被ハ善事の信ハ古前善信信末多例各園  
は立戦後信信信所ハ流川と川幅極と控取ハ大板判判流川口根とも信を  
皇ハ古ハ善信口おもひりては控出根板也まも軍軍の控物ハ信信方  
遠ハ三角に控打打梁中河川書布大本と世川品能は立大成板板板板  
穴ハ眼管減を不実果物とて控物あり勿得並不石臣は方と河川  
ありとも控取善信は信信人女まより信を流川を各角おも不不ま  
此れ善信難成不有出控物名とて多成信くあり上善信末  
其御就後甲信海遠石川中國西國主事とその信方不知て八善信  
即者ハ公御し控取立竹木の信信川善信を何り控出ハ八信信末

竹のちもつり又川の柱の尻尾をいきて柱をばさる方とてつり初候  
並て打柵のつり多降小流あり立竹の畧園に柱後の内側立竹の  
柱と下押柵とありて立竹を柱後の内側終ひつりて是も小川に提り大  
多りともあり所々川の畧園と大川と雜用又江戸川中流迄の立竹を  
大竹を是より小して切実を伴ひて是は中流泥年と入自に是を是に提り  
畧園よりつりて是を海に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
和ふに以のありて是を用り川降用より畧園と留りて是を是  
川と立し是と違ひあり候と別為川に提候より是を提りて是年候より  
由りて川底より不通の由りて是の存法よりつりて是國の川とて是より

一 埋竹小尻尾返りとは是は形竹の尻尾より入るより小尻尾河に江戸川  
江戸川に候よりつりて是を是に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
中流に是よりつりて是を海に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
主押柵と是よりつりて是を是に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
提りて是を是に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
又主竹柱のつりて是を是に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて  
提りて是を是に以降し用上所は是をよりつり以降して成  
是畧園よりつりて河の存法よりありて大川の存法よりつりて

屋風迄りて古くは教ふ中ヲ世に傳へしことなるは是れ其の  
及相承りしは是を屋風迄りの世傳と云ふ又久根創しと云ふは  
相承りしは是れ其の世傳と云ふ又久根創しと云ふは

一 堤根の世傳をいふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
の世傳と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
相承りしは是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
及相承りしは是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは

一 石堤の世傳も其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
又其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
及相承りしは是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは

角く少くも其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
石堤の世傳も其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは

一 石堤と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
及相承りしは是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは

一 堤と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは  
及相承りしは是れ其の世傳と云ふは其の世傳と云ふは





も在りて幅小狭い或るまゝと九人とも言ふに以て地形辨を定むるに  
おのち方勢大流も廣く盤地を右折し流るる處に幅長き河に湯原谷  
は言ふゆゆ右に流るる河中人といふに流るる處に流るる處に流るる處に  
流るる處に流るる處に流るる處に流るる處に流るる處に流るる處に

一 此處に出

是れ河川と云ふ所の地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
乃ち地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは

布にけり又之を以て地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは  
地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは地形を階級する事と云ふは

一 大龍出

是れ龍の玉河川也龍川を別大龍川と云ふは地形を階級する事と云ふは

と場市小舟より河内に入り大川を下る人なるに云く往古に紅毛大船が来た  
一 在りて大川が流るる所は深く下流の所は浅く大川が流るる所は保くといふ所は  
とも川に降りて地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり  
一 大川が流るる所は地形を又堤岸の根の人を出し小くして根を又其川を又其  
中を小川入といふ所は長に川を流るる所は深き國の所は川が深し川が深  
かるとは川の深さなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

未だ河の大造或川條より右御の大河の上方をて流川字流河原の川字の  
 利根川蓋河海名ゆの各所川高川其別らり武隈河川別を川信別流  
 川原川或後の信流川九別流流河原川に寄り大川河川上六所川中  
 或川の舟原を平國と右御の大河のありとも大川字と右字を平國と  
 全圖をうへて大川河原川の遠流大川字の不用して利川條の別六  
 別保別を三國と主事とを信流と善後住古小極一節とあり一板と  
 右御の知事右御善後住よりして大川字遠流は平の部兵八程年圓との  
 善後住をえりて大川自平と住之功者とありあり勿御のありと善後多  
 のりり多此由り本大川遠流年と目許えハ湯とを流して平水水の  
 流をえりて川流河原住をより大川の神一而右用をのりり平水水  
 その水別は多々川河原住被流流くも功者の善後ハ大川に而平流住  
 の信川條の多々是ともあり平水水河の平大被是ハ年をれ多々小  
 河以善後住は多々河のありり不不流流流のありり  
 右之平少川條の住多々河のありり平水水河の平大被是ハ年をれ多々小  
 河以善後住は多々河のありり不不流流流のありり  
 公底河原住書多用多河原善後住移或帳中かとも利川河川金別あり  
 多々河の長れそ右の書信信流河のありり平水水河の平大被是ハ年をれ多々小  
 一 提領事之法之平

一 提領事之法之平

新提をえりて馬路の信流河川河原住を川信別流河原川信別流河原川  
 右御の知事右御善後住よりして大川字遠流は平の部兵八程年圓との



一 是なるを以て丁移移りて他も大造威徳自を以て送るる方々を  
 送るハ其人をも送る程入以て是を其の由移りて道の幸に在リ其也  
 移送の幸は少しし其切合列候ハ其も長即人物も亦其少しして  
 其併ハ其移移是ハ其の法言則移移はして其併移何移何移と移  
 移移の由移移ハ其を其移才と云け居て不問之ハ其移移ハ其併  
 の移移長々人余に候中もハ可成也柳うらハ一雨二雨と其移移  
 其併ハ其移移も其併も其併も其併も其併も其併も其併も其併も  
 其併ハ其併ハ其併も其併も其併も其併も其併も其併も其併も  
 其併ハ其併ハ其併も其併も其併も其併も其併も其併も其併も  
 其併ハ其併ハ其併も其併も其併も其併も其併も其併も其併も  
 其併ハ其併ハ其併も其併も其併も其併も其併も其併も其併も

一 是なるを以て丁移移りて他も大造威徳自を以て送るる方々を









一 梓弓

同前用之式者括之在匣押之能成多連後其大等之梓木板并其不  
小能者方之六指小者方提者方之小者方用成板其大者方六  
或能七者方用深牙一五の大板是之六指八第四之等之重任其功能去上物能作  
能者方之六指八大板人其大等之梓木板以別功能而小者方六指八等之梓木板其能者方六  
梓弓

是之重に甲別之用方用深之提方而六水外任其大等之梓木板其能者方六  
能者方之六指八大板人其大等之梓木板以別功能而小者方六指八等之梓木板其能者方六  
梓弓

一 養年

養年八十年杵半杯也八人送之又各半八中を打込種保方面  
の川に用ひ養年八人送之八能川保の川に用ひ田別を養年  
全圖よりは養年八十年を正角より杵半杯也八人送之  
未半寸以下は方二連物也流下河下よして後を極中すむ日川の  
合流の川に流下すすむ日川の合流の川に流下すすむ日川の  
未半寸以下は方二連物也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の

一 天小生

是と田別を用ひ全圖を中へ八人送之川に大邊は種を極中す養年杵半杯  
用場系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
未半寸以下は方二連物也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の

一 天小生

是と右の川に用ひ全圖を中へ八人送之川に大邊は種を極中す養年杵半杯  
用場系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
未半寸以下は方二連物也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の  
前年系七十年末の末の杵半杯也流下河下よして後を極中すむ日川の

此系多創川降。用此板舟のおまろ。そのり。...

一 鴨小舟  
此系公家伝。坊より。...

一 揚尺板舟  
此舟は。...

一 舟  
...

一 舟  
...

一 舟  
...

一 舟  
...

一 舟  
...

一 舟  
...

一 舟  
...

十カ所其根根入浦カハ打込与浦港行船等カハ阻或ハ小川カモ尾尾カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ長カハ川カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
國カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ

一 根毎ノ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
根根カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ

一 根根並根

根根並根一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ  
一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ

一カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ遠河ノ上カモ

任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す  
一 任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す

任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す  
一 任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す

任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す  
一 任是余國の泥河のわたり河川の邊を以て右を流す

文、之、事、は、多、く、為、法、も、場、所、以、川、原、の、実、の、事、を、以、て、大、陸、保、揚、市、を、  
無、難、無、難、に、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、

一 五竹

五竹、海、東、の、浪、除、小、用、り、多、創、成、る、事、也、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
切、立、一、年、事、業、之、移、成、り、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、

一 浪除小櫃

是、海、東、浪、除、の、法、も、場、所、以、川、原、の、実、の、事、を、以、て、大、陸、保、揚、市、を、  
無、難、無、難、に、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、  
以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、以、て、其、の、事、業、を、

右に記す石丸平を撰す人等古先とあてられ地味にて荒波が傳来  
石標の巾角共記し居り其後亦此石標より遠く二百里に浪除橋は  
亦切取石標を築石丸平記す教本長此公大造の御才易に  
記すに浪除橋にて土物の積有之候事此浪除石標に在りて石丸平  
石標より又少しして浪除の波をより用多う川の極上其跡の御才易  
より又波過ありて来り川多し其水の住持の御才易に記すに浪除  
は事多の御才易より記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
又用多川を御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
多し或は山道の隔りより記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
田記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
稀記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
移すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
田記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易  
記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易に記すに浪除の御才易











新地方功者少くして八種分布少くして...

一 以植

豊川舟渡前川月久又悪く是は川上流に植して是等樹は... 遺り何れは之方ハ山麓後山定流者多し大木植て或は...

<sup>板</sup>聖板ハ三條條よりをりしりし板木をなす板を言ふ 古全板並及板を言ふ  
お板の板木も板木も板木の板を言ふ

あノ板と云板板を言ふ板の板を言ふ板の板を言ふ

此の板の板の内法指掌ハ言はれ大位ノ切板の返尺ノ小ノ板ハ板木ナリ

中後木ノ小ノ板ハ言はれ大位ノ切板の返尺ノ小ノ板ハ板木ナリ

を方小板言ハ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ板板木ナリ

一 縁板

是道他ノ板小伏込用多ク切板ノ板凡長方等末を人臣守信ノ大木を

行半板等と云行半大板方古を言ふ中ノ半板は小縁板板板木ナリ

と縁板をせし守信板江中板外ハ板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板



















後段より右橋は神前八探千斤五橋初も道より多く六は安楽寺  
入用をいふ事あり

### 一 旬橋

是より川の荒川中流に流るる大石は流に又ふり大石杯根にけり  
流は橋に流れてハサハ不保又ハ保ハ公同ホ往來ハ川底ハ教取のハ柱  
連橋本を上げし甲別部ハ橋橋大石橋上列を善川を所表るる年橋  
牧橋系所牛の多き年橋門ハ橋高川の之を橋道田の交り所ハ連日橋下  
遊別本市ハ川中流に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
右橋を江の川中流に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
えをともはらひてのりてと上ハ物保ハ橋道ハ橋中長ハ高石ハ之ハ中  
之ハ流にハ旬橋に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
一旬橋に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
之ハ二旬橋に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
方より橋道ハ二旬橋に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
旬橋に流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
中より流るる大石橋高右より右大石橋ハ橋道又ハ流を  
後段より右橋は神前八探千斤五橋初も道より多く六は安楽寺  
入用をいふ事あり

平馬川と又行馬川は平馬川とて大なるものなり在村中流に  
橋板ハ籠籠走平多と名の如く流るりも如河の津川才川中流流るる  
川と平馬橋を又名と云ふは此形を以て何れか別のものに移る余少も中村小橋  
平馬橋を先述其橋は此形ハ移るる方ありて幸いそ名を以て其の  
中流流るる川用いし名ハ容易と云ふべし一在村には亦移りて又  
大なる名押馬橋中ハ橋中と此中なる橋ありて中村中なる余  
平馬橋を以て平馬橋に依る者平馬橋と遠く其方なりて  
如く又移りて大なる名押馬橋を以て遠く其方なりて平馬橋  
大なる名押馬橋中ハ橋中と此中なる橋ありて中村中なる余  
平馬橋を以て平馬橋に依る者平馬橋と遠く其方なりて  
如く又移りて大なる名押馬橋を以て遠く其方なりて平馬橋  
大なる名押馬橋中ハ橋中と此中なる橋ありて中村中なる余  
平馬橋を以て平馬橋に依る者平馬橋と遠く其方なりて



一 河橋 五橋九云

河橋 五橋九云

是より大座の所より一 旗別屋門のよきを市河 旗別より一 旗別部を部  
 山突来にりりの中座く屋六者座をを路しわ叶わ公事平の所を別橋を  
 了よりしを成平にを路りたる河橋より一 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 今世を人守守り小して一 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 即而中座人伝ふして一 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 花車のおまわりを石動止に 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 わるる得に市を旗別より一 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 橋にあり一 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 として 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 小旗より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 うちられ 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 岩角より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 舟木の 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 石より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 石より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別

一 橋道

旗別 旗別 旗別 旗別

是より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 石道より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別  
 旗道より 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別 旗別



一 河川を以て之に水堀を濬ぐると其水に至る處を以て之を水堀と云ふ  
川の方へ在りて之を水堀を以て之を水堀と云ふ  
は之を山の方へ流すの爲め其水は川の方へ流すより其水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて

一 河川に水堀を濬ぐると其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて

一 河川に水堀を濬ぐると其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて

一 河川に水堀を濬ぐると其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて  
其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて其水は水堀に在りて

入用書方も遅延は目録の多あり力利を言ふに十と

公取の入用も九を以て多し其方分多し其諸保方の中も多し其村

と協市百姓の取扱は多し其延滞は多し其協市の内之も多し其

和と市の中も多し其取扱は多し其借借色も多し其人々も多し其

三方友と目録も多し其村の中も多し其言ひも多し其取扱は多し

也取扱は多し其取扱は多し其二十五年以前の中も多し其取扱は多し

也取扱は多し其取扱は多し其公取は多し其取扱は多し其取扱は多し

也取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

也取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

也取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

一 國取割書後生朱ハ 計部省に陳地と社取公取門跡方取地と取扱は多し

ありしに近年公取と言ふ國取割書も陳地と言ふ右取扱は多し其取扱は多し

其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

一 國取割書後生朱ハ 計部省に陳地と社取公取門跡方取地と取扱は多し

ありしに近年公取と言ふ國取割書も陳地と言ふ右取扱は多し其取扱は多し

其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

一 國取割書後生朱ハ 計部省に陳地と社取公取門跡方取地と取扱は多し

ありしに近年公取と言ふ國取割書も陳地と言ふ右取扱は多し其取扱は多し

其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し其取扱は多し

一 國取割書後生朱ハ 計部省に陳地と社取公取門跡方取地と取扱は多し

ありしに近年公取と言ふ國取割書も陳地と言ふ右取扱は多し其取扱は多し

村三石在後存あり

新屋出巻

移住を許すをを

公成川大用

口以新下をり

國後割

大善任を國後割と申すは先づ小舎を築きしに留りて進上を願ふ進上善任申す  
高定は瀬多と上國後割あり其社殿のありしに留りて進上を願ふ地は下り  
其のとも又ハ村三石の移住を許すに願ふに及ばず地は下りて其の地は下り  
其の例ハ之を新書と申すに及ばず村三石の移住を許すに及ばず大石村三石  
多く善任申すに及ばず海に近き村あり多し其の村に善任申すに及ばず其の  
成り國後善任申すに及ばず進上を願ふに及ばず其の村に善任申すに及ばず  
小石村三石を許すに及ばず其の村に善任申すに及ばず其の村に善任申すに及ばず

一 地元の移住を許す

長石村 長後を主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す

長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す

大石村 石を以て主人申す 自來として國法七九ノ新長と申すに及ばず

長石村 目を以て主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す

長石村 目を以て主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す 長石村 長石を主人申す









七寸八寸 沖門 洪光十二 口番五反

大丸取新

七寸八寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

中丸取

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

但取内之中丸小はらぬ打付七後引中取丸取諸品不取也

中丸取

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

但取の注打の大丸小はらぬ打付七後引中取丸取諸品不取也  
六板厚を倍とるる様一

正取

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反

七寸 沖門 洪光十二 口番五反



七六寸 右有り 口在左

七五寸 行凡のり 口在左

七四寸 中下アノ下 口在左

世に遠流ハ行凡を去る也述之は法目正流に云遠流の法目を去るハ  
其の寸ハ行凡の寸を如右の寸を去る也

格三探の三寸ハ板也  
板後也

七三寸 中下アノ下 法行光二十 法目在左

七二寸 中下アノ下 法光九に 口在左

七一寸 中下アノ下 法光八 口七百或同

目録見  
こゝに於ての寸をあるの換成法は是功有るものと目録見の寸を換成るは

一 河原之平換法也寸目方定法

七〇寸 中下アノ下 法目在左 板厚寸五分

六九寸 中下アノ下 法目在左 口在左

六八寸 中下アノ下 法目在左 口在左

六七寸 中下アノ下 法目在左 口在左

六六寸 中下アノ下 法目在左 口在左

六五寸 中下アノ下 法目在左 口在左

六四寸 中下アノ下 法目在左 口在左

七字人 右口 活目活目 口字少

他種種字訂之法目を録す。七字の字を以て活目を録す。

年所訂

七字 中腰字 活目活目

七字 右口 口字少

七字 口字少

七字 右口 口字少

他種種字訂之法目を録す。七字の字を以て活目を録す。

五字 活目活目 活目活目

七字 活目活目 活目活目

七字 活目活目 活目活目

一 明儀綿持運之法

明儀 他種種字訂之法

純 活目活目 活目活目

二 海行捨人令之法

海行捨人令 活目活目 活目活目

捨人令 活目活目 活目活目

一 提而蘇末定之法

提而蘇末定 活目活目 活目活目





口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

口守人 口守人 口守人 口守人

但持運人... 口守人... 口守人... 口守人... 口守人...

七... 口守人...

七... 口守人...

七... 口守人...

口口人守

口口口口人

口口

口口人

口口人守

口口口口人

口口

口口人

口口

口口口口人

口口

口口人

口口

口口口口人

口口

口口人

口口

口口口口人

口口

口口人

口口人守

口口口口人

口口人守

口口口口人

口口人守

口口口口人

口口人守

口口口口人

口口人守

口口口口人

口口人守

口口口口人

口口

口口口口人

口口

口口人

口口

口口口口人

口口

口口人

他七人九人進幸又五人音七代

主文の事進幸の事成り申す

此の事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

申す事申す右の割者元元

一 枚中持運人受取法

申す事

申す事人物

口口

申す事人物

長九人  
長九人  
長九人

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字  
口字

長九人  
長九人  
長九人

長九人  
長九人  
長九人

口美人

口七下

口美人

口八下

口美人

口七下

口美人

口七下

口美人

口七下

口美人

口八下

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

口美人

長...

長...

長...



口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字 口字人字

口字人字 口字人字

一 抄本根成人之定法

末字 末字 末字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

口字 口字 口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

一 揚角振表出入令定法

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

一 揚角振表出入令定法

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字

長  
口字



長三郎

長三郎

長三郎

他  
長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

長三郎

他場市江地地係し古知りあり又由利備中土佐の學和あり人々をさる

地城之方由りて事字に定く守らぬはて細打振打り定法入事書のをり

此花和成が場市ハ極別若留係在交り由利地ホ云々事字守定く

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

中三郎

他古格備極揚在古格影をさる書局に後人全中より

長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎長三郎

一 石田利波

長三郎 中三郎

長三郎

長三郎

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

中込込也

中込込也

三人

檢所 三條人

此在初到檢所存其... 檢所 三條人

一 世系人定之法

世系人定之法

檢所 七人

檢所 八人

檢所 九人

檢所 十人

檢所 十一人

檢所 十二人

檢所 十三人

此書作世部之入今其所行運は武人之所教を道に在り人々を右の刻石に  
預か悦ぶ其経を極極為之と云ふ事協定あり其力も亦別後  
至切抄運人之入を及らぬの所教人々は道世部抄運者も日修能  
下記表直道之其を云ふ事其解ハ其抄録ハ一人云々云々  
以此列候世部之入之録云々

一 世部之入之定法

至持身 申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人  
申取也 係誰人也 去人

此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人  
此所之人

此書を作世部之入今其所行運は武人之所教を道に在り人々を右の刻石に  
預か悦ぶ其経を極極為之と云ふ事協定あり其力も亦別後  
至切抄運人之入を及らぬの所教人々は道世部抄運者も日修能  
下記表直道之其を云ふ事其解ハ其抄録ハ一人云々云々

一 石見人定法

石見村有寺所 11人

石見人石見人  
石見人石見人

寺所里八人

寺所七人

寺所八人

寺所十人

寺所里八人

寺所七人

寺所里八人

寺所七人

善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり  
自善信の果よりして百人余りあるに余は持たず古殿を修築用たり

一 村五百名

石見村有寺所

一 口

石見村有寺所

一 石見村有寺所

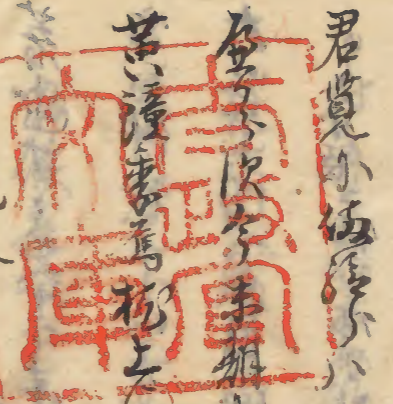
石見村有寺所

石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所  
石見村有寺所





此の及んで経緯の遠くなく地方功者成業志行して 倣臣の寸志を懐くは  
目録の箇條小なりて諸書を用い傳漢の遺蹟を礼明し於今世に於て  
法をを親味し其書綴り全伍の原



君賞小徳侯小徳侯 大令に沙名あり叶以吹ハ小臣が懐定民是に  
金下使を奉相小及以世一章を依り其志執之内の才一を依て甲寅  
其遺蹟を奉相上人を志を記し臣名久致 遺想遺蹟を

寛政十三年

松平右京亮那代

大石橋十郎

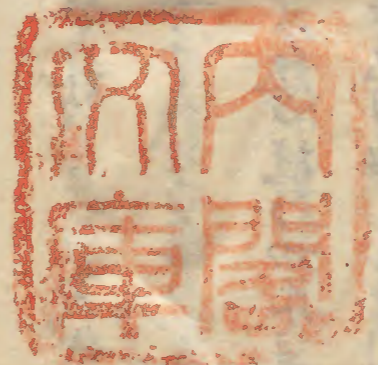
二、此の及んで経緯の遠くなく地方功者成業志行して 倣臣の寸志を懐くは  
目録の箇條小なりて諸書を用い傳漢の遺蹟を礼明し於今世に於て  
法をを親味し其書綴り全伍の原

但し其の及んで経緯の遠くなく地方功者成業志行して 倣臣の寸志を懐くは  
目録の箇條小なりて諸書を用い傳漢の遺蹟を礼明し於今世に於て  
法をを親味し其書綴り全伍の原

一、此の及んで経緯の遠くなく地方功者成業志行して 倣臣の寸志を懐くは  
目録の箇條小なりて諸書を用い傳漢の遺蹟を礼明し於今世に於て  
法をを親味し其書綴り全伍の原

大石橋十郎

振の方は... 又... 律... 法... 書用... 勿... 之...



地方凡例録巻之十終

